

個人質問

31人の議員が行った質問の中から、いくつかを取り上げて要旨を掲載

子育て・福祉



市ホームページの子育て支援サイト

さらなる認知度アップと
内容の充実を

問 子育て支援サイト「こそだてぼけっと」の現状と今後の取り組みは。

答 現在は、民間からのイベント情報や子育て支援団体・活動の紹介、子育てサポート通信の掲載など、利用者が欲しい情報を自ら発信し、共有できる場を提供している。また、子どもと遊べるスマートフォンアプリの公開により、サイトの利用者数が飛躍的に高まっている。

平成24年度は、子育て経験者や専門家によるコラム、子育て世代の視点を加えた公園の紹介などに取り組みたい。

今後もアンケート、ヒアリング、座談会などにより、利用者のニーズを適切にとらえ、内容を充実させていきたい。

特別養護老人ホーム
入所指針を策定

問 特別養護老人ホームの現在の施設数と開設予定数は。入所指針策定の目的とポイントは。

答 現在の設置数は46施設で、

平成24年中に9施設の開設を予定している。

これまでは、各施設が独自の基準で入所を決定していたが、共通の入所指針により、判断基準を点数化することで、入所決

定過程の透明性、公平性の確保を図った。判断基準項目から待機期間をなくすことで、要介護度の高い方や自宅での介護が困難な方など、必要性の高い方が優先的に入所できるようになると考えている。

必要な在宅介護サービスの提供

問 老人施設等を出た人の受け皿はどうするのか。

答 在宅生活を支えるためには、従来からの在宅サービスだけでなく、訪問診療や配食サービスなど、介護保険以外のサービスを組み合わせることが考えられる。さらに、重度の方に対しては、在宅生活を支えるサービスとして、定期巡回・随時対応型サービスを導入するなど、体制の整備に努め、新たな複合型サービスについても積極的に取り組みたい。

ホームレス支援

問 ①本市のホームレス支援事業の実績と評価は。②緊急に住むところが必要な人への対応は。

答 ①平成21年12月下旬の事業開始から24年1月末までに受

け入れた91人のうち、61人が就労により自立しており、現在の厳しい経済・雇用情勢の中で大きな成果だと評価している。

②シェルターへ数人分の入所枠を設けているが、すべての人を受け入れられないことから、若干の入所枠の拡大を図り、緊急時にもできるだけ受け入れが可能となるよう努めたい。

障がい者への
住宅入居等支援事業

問 保証人がいない障がい者の住宅入居を保証するために、制度を創設しては。

答 保証人がいないなどの理由で賃貸契約による一般住宅への入居が困難な障がい者に対して、入居に必要な調整や家主への相談・助言を行う住宅入居等支援事業がある。平成23年度は保証人の相談が2件あり、民間保証会社や個人が保証人になっている。

この事業を周知し、障がい者の地域生活への移行を推進していきたい。

増加する発達障害者への支援

問 民間組織との連携のため、定期的な会合を持っているか。

答 平成23年度は、必要に応じて関係支援機関等と支援方針や役割分担等について検討会や勉強会等を行い連携を図ってきた。市発達障害者支援センターが中心となり、関係する支援機関と連携して支援をしていくためには、関係機関等が定期的に会議を持つことも必要と考えている。

平成24年度は、医療・保健・福祉・教育・労働等、支援に関係する機関や団体等との連絡会の立ち上げを予定している。

まちづくり・暮らし



環境教育の場としても利用される西川緑道公園

西川緑道公園周辺の魅力向上

問 多様な植物や生物と触れ合え、まちづくりや環境保全に取り組む多くの市民が集う西川は、^{※7}エコ通りとして最もふさわしい。今後の取り組みは。

答 西川緑道公園活用事業協議会を核として、地域・NPO・大学等と連携を深めながら、地域全体の魅力を高め、さらなるにぎわいをつくり出したい。

また、国連ESDの10年最終年会合の開催に向け、西川緑道公園一帯でエコをテーマとした活動に取り組み、広く発信することにより、持続可能な地域づくりやESD活動を効果的に先導できると考えており、自然エネルギーや省エネ設備の「見える化」や環境教育の場としての利用を一層促進する。

西川の魅力とにぎわいを高め、平成26年には世界各地からの会合参加者を迎えたい。

岡山市立図書館がリニューアル

問 システム改修と館内レイアウトの変更点及び改修費は。

答 老朽化したシステムの更新により、同時に複数冊のインターネット予約が可能になり、キーワード検索機能が充実した。

また、建部町図書館や瀬戸町

図書館の蔵書検索や予約が簡単にできるようになった。中央図書館や幸町図書館では、インターネットアクセスコーナーの増設や持ち込みパソコンの使用スペースを設けるとともに、館内のサイン表示の見直しなど、レイアウトも変更した。

システム改修費は、開発費4,357万円、年間の維持管理費1,903万円で、これまでのシステムに比べ年間経費を縮減している。

市営墓地の現状と今後

問 市民の墓地に対する考え方は多様化し、今後さまざまな形態の墓地が考えられる。現状への見解と新規建設予定は。

答 現在、43カ所の市営墓地がある。笠井山霊園は大自然の豊かな緑の中の墓地として市民に親しまれており、上道墓園では、西洋式の墓石に限定した芝生墓地を運営している。

平成24年度からは、南区灘崎地区で、市として初めて大規模な納骨堂の運営を開始し、公営墓地利用の選択肢を増やす意味でも、積極的な周知に努める。

新たな墓地建設としては、なださきメモリーパーク（仮称）を建設するために用地買収を行

い、健康みつ21公園（仮称）の建設計画の中にも墓地を予定している。

所有者のいない猫への対応

問 地域猫活動の現状をどう受け止めているか。認知度を上げるための啓発活動は。

答 地域住民の協力で、餌やりやふんの処理及び不妊・去勢手術などの管理を行うことは望ましいことだが、地域の合意が十分に形成されていないケースが多く、トラブルが発生している現状も認識している。

平成24年度から計画している所有者のいないねこ対策活動支援モデル事業により、実施方法や効果を検証しながら、本市の実情に合う形づくりを目指す。

この活動には、地域住民が一体となつての協力体制が欠かせないため、今後、チラシの配布、ホームページや広報紙の活用による啓発活動に努める。

東日本の復興支援

問 震災から1年が経過する中で、本市としてどのようにかわっていくのか。

答 支援の内容は物的支援から人的支援へ、職員派遣は短期から中長期へと大きくシフトしている。今後は、①物的支援の要請があれば、これまでどおりの直接的支援を行うとともに、人的支援についても可能な限りの支援を行う。②関係機関等と取り組んでいる市民キャンペーンを継続し、間接的な経済支援にもさらに取り組む。③本市へ避難された方へは被災者の立場に沿った対応を心掛けるとともに、ニーズを的確に把握しながら対応する。

また、復興へのかかわりについては関係機関等と連携して、直接的、間接的支援を行いたい。

用語解説 ※7 「エコ通り」

事業者・市民・行政等が連携し、省エネ対策等への一体的・複合的な取り組みが行われている市役所筋・西川緑道等の道路

※8 地域猫

特定の飼い主ではなく、その地域に住む人々が共同で飼育と管理をしている猫

環境・観光

ごみのふれあい収集が 5月からスタート

問 ①収集は生ごみだけか。
②どこに申し込むのか。③分別等の対応は。④料金は必要か。

答 ①可燃ごみ、不燃ごみ、資源化物を対象としている。②環境事業課が直接または郵送で申請書を受け付けているほか、区役所、支所、地域センターでも申請書を受け取っている。③ごみステーションに出す場合と同様に分別し、可燃ごみ、不燃ごみは市の有料指定袋に入れて、玄関先などの指定場所へ決められた時間までに出せば、その日のうちに収集する。④別途の料金負担はない。

「岡山市の犬島」を強力にPR

問 犬島アートプロジェクト「精錬所」が岡山県観光連盟の^{※9}着地型観光提案企画で第1位を獲得した。このチャンスをどう受け止めているか。

答 市としても、犬島は発信力のある観光素材として、情報発信している。平成23年度は旅行雑誌3社に取り上げられたほか、J R西日本と連携して、全国の旅行代理店への売り込みも行っている。

今後は、25年の瀬戸内国際芸

術祭、26年のE S D最終年會合の開催を見据え、外国人を含む観光客を受け入れる体制整備に努め、周辺自治体等とも連携しながら、瀬戸内海全体としても国内外への情報発信を強めたい。

ごみの減量化・資源化を推進

問 さらなるごみ減量化に向け、目標達成への意気込みと方策は。

答 改定中のごみ処理基本計画では、平成37年度の市民1人1日当たりのごみ量を22年度実績から約14%削減した720グラムとし、資源化率を22年度実績の約16%から33%に増加する新たな目標値を掲げている。

現状の施策に加え、家庭系ごみに含まれる再利用可能な古紙・古布類の50%を分別し資源化物として回収するとともに、エコクッキングや段ボールコンポストの活用により生ごみを10%削減、検査の強化や排出方法の見直しなどで事業系ごみを10%削減する。

さらに、基本計画の概要版を公民館等に配布し、出前講座で活用するなど、市民協働でごみの減量化・資源化を推進したい。

不法投棄への対策

問 監視カメラの設置台数とその成果は。

答 現在、保有台数5台のうち4台を南区と北区に設置している。

町内会からの要望をもとに、数カ月おきに設置場所を移動しており、これまでに足守地域や金甲山周辺などに設置した。地元からは、設置前に比べて不法投棄が減少し、周辺環境が改善されたと喜ばれており、高い抑止効果が上がっていると考えている。

文化遺産を観光へ活用

問 すぐれた観光資源を埋もれさせないために、部署間での情報共有や連携はできているか。

答 吉備路を舞台とする吉備津彦と温羅の桃太郎伝説を童話に仕立て、主要な場면을観光スポットとして紹介する「おかやま桃太郎ものがたり」のパンフレットを作成している。

こうした取り組みに当たっては、学術面からの監修が必要なことから関係部局が密接な連携を図り、情報を共有できる機会を増やしたい。



童話に仕立てた観光パンフレット

市 議 会 日 誌

【1月】

17日 議会改革等推進会議
20日 市民文教委員会
30日 総務、保健福祉委員会
31日 議会改革等推進会議

【2月】

3日 にぎわい創出調査特別委員会
10日 議会運営委員会
13日 議会改革等推進会議
17日 議会運営委員会

20日 総務、保健福祉、環境消防水道、経済、建設、市民文教委員会及び同協議会
21日 市民文教委員会協議会
防災・危機管理等調査特別委員会
22日 2月定例市議会開会日
29日～3月2日 6会派による代表質問

【3月】

5日 議会運営委員会
5日～12日 31人の議員による個人質問
13日 総務、保健福祉、環境消防水道、経済、建設、市民文教委員会

14日 総務、保健福祉、環境消防水道、市民文教委員会
15日 市民文教委員会
16日 総務、環境消防水道委員会
19日 議会運営委員会
21日 保健福祉委員会
2月定例市議会最終日
26日 保健福祉委員会
27日 議会改革等推進会議

【4月】

11日 議会運営委員会

用語解説 ※9 着地型観光

観光客等を受け入れる地域が、自分たちの持つ観光資源を生かして企画するツアー

※10 エコクッキング

周りの環境に配慮しながら調理することで、出すごみを少なくしたり、エネルギーの無駄を省いたりすること

※11 段ボールコンポスト

段ボール箱を利用した生ごみ処理容器